

読書活動推進NEWS

只見っ子なかよしボランティア ～只見町立只見小学校～

6月23日(木)に、只見町立只見小学校を訪問し、ボランティアのみなさんによる読み聞かせの様子を取材しました。



1・2年生…安藤さんによる「とうめいにんげんのしょくじ」

只見小は、読み聞かせのおかげもあって本好きの子が多いと感じています。ボランティアのみなさんの読み聞かせは、いつも読み方が工夫されていて、「続きが読みたい!」と子供たちが引き込まれるような魅力があります。(教頭先生より)

読み聞かせが始まると、子供たちはずっと本の世界に入り込みます。中学年になると、好きな本に偏りが出てきますが、ボランティアのみなさんの読み聞かせは、子供たちが手に取る本の幅を広げる貴重な機会になっています。(松本先生より)



3・4年生…鈴木さんによる「ほうれんそうはないています」



5・6年生…目黒さんによる「夏帽子」

子供たちは、隔週木曜日の読み聞かせを楽しみにしています。様々な本を紹介していただくことで読書への関心が高まり、各家庭での「家読」の充実にもつながっていると思います。本を読む習慣は、読解力の向上にもつながっているはずです。(千葉先生より)



読み聞かせを終えた3名のボランティアのみなさんは、子供たちの案内で職員室に戻ると情報交換を始めました。「文字だけでなく、絵も大切。」「本選びは、先生から子供たちの実態をうかがいながら。」「次は何を読もうかと、朝まで悩むこともあるよね。」「ニュアンスが伝わるように抑揚を意識して。」など、お互いに心がけていることや活動に寄せる思いなどについて話し合いました。

「言葉が増えると、今の自分の気持ちを言い表せるようになります。そうすればきっと、相手の気持ちもわかるようになりますよね。」只見っ子なかよしボランティアのみなさんによる読み聞かせは、読む力だけでなく、子供たちの心を育てる大切な機会になっています。